

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	第一工科大学
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
航空工学部	航空操縦学専攻	夜・通信		4	10	14	13		
	航空エンジニアリング	夜・通信			10	14	13		
工学部	情報・AI・データサイエンス学科	夜・通信		14	14	13			
	機械システム工学科	夜・通信		14	14	13			
	環境エンジニアリング学科	夜・通信		14	14	13			
	建築デザイン学科	夜・通信		14	14	13			
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wpcontent/uploads/2023/07/syugakushien2.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	第一工科大学
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2024/06/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

・ 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	社会医療法人 雪の聖母会 「聖マリア病院」医師	2024. 2. 11 ～ 2026. 2. 10	コンプライアンス
非常勤	株式会社タワラヤ社長	2024. 2. 11 ～ 2026. 2. 10	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	第一工科大学
設置者名	学校法人 都築教育学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
1 授業計画書の作成過程	
(1) 履修規程に則り、効果的な教育が出来るように、学科ごとに検討を重ねて作成している。	
(2) 科目ごとの到達目標、授業の概要、年間スケジュール及び成績評価の基準・方法を示すとともに、テキストや参考資料等を明示している。また、年度ごと、教育成果、授業評価、公開授業、学生アンケート結果等を踏まえて見直しを行っている。この際、カリキュラム改訂に当たっては、先行的に必要な情報を収集し、教育に必要な教員を養成し、教材等を確保して授業計画書(シラバス)に反映している。	
2 授業計画書の作成・公表時期	
前年度3月には作成し、HP上に公表している。	
授業計画書の公表方法	鹿児島： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/faculty_info/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

1 履修科目の評価基準・方法

- (1) 主として、前期、後期の定期試験による得点の他、授業時間内の小テスト、課題レポート等の提出状況や実験・実習成果等により行い、また受講態度等による平常点を加味して総合的に評価している。
- (2) 授業時数の3分の1を越えて欠席した場合は、その科目の受験資格を与えていない。

2 成績評価の基準

各授業科目の評価は、100点を満点とし、得点に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階評価としている。「不可」の学生に対しては、1回限り再試験を行っているが、この際、最高の評価は「可」としている。また、やむ得ない理由により、定期試験を受けられなかった学生に対しては、本人の願いにより追試験を行っている。これらのことは、学則に明記され、学生便覧にて各学生には周知している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- 1 学生の総合的な成績は、GPAを用いて評価している。成績評価を評価点に換算する場合は、次の基準による。

区分	評価		評価点	GP
	記号	成績評価		
合格	S	秀	90点～100点	4.0
	A	優	80点～89点	3.0
	B	良	70点～79点	2.0
	C	可	60点～69点	1.0
不合格	D	不可	59点以下	0

- 2 GPAは、学期ごと、年度ごと、通算の値を算出している。また、「不可」となった科目を再履修した場合、通算のGPAを算出する場合に限り、再履修時の成績評価をGPAの計算の対象としている。
- 3 GPAは、個人配布の成績通知書に記載するとともに、キャンパスプランの学生カルテからも閲覧できる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/07/syugakushien4.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1 卒業の認定に関する方針

「個性の伸展による人生練磨」という建学の精神に基づき、一般教養並びに専門学術の理論及び応用を研究教授するとともに、「工学」という専門性を個性と位置づけ、「学士力」を身に付けさせ個性の伸展を図り、124単位以上の単位取得により学位を授与している。

2 方針の具体的実施状況

学位の認定については、共通総合教育科目36単位、専門科目88単位を取得していることを条件に、毎年3月初旬に行われる卒業判定会議（教授会）において、卒業の認定に関する方針に照らし合わせて審議し、学長が決定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/2024_diploma-policy.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	第一工科大学
設置者名	学校法人 都築教育学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人（第一工科大学）HPによる
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/information/jihee/
--

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 航空工学部、工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2023/04/20230401_gakusoku.pdf
(概要) 学則第 1 条（目的及び使命） 本学は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に則り、また、個性の伸展による人生練磨という建学の精神に基づき、一般教養並びに専門学術の理論及び応用を研究教授するとともに、工学という専門性を学生の個性として伸展させ、社会の創造発展に寄与し、地域に貢献する人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/3policy/
(概要) 本学は、『個性の伸展による人生練磨』という建学の精神に基づき、一般教養並びに専門学術の理論及び応用を研究教授するとともに、「工学」という専門性を個性と位置づけ、『学士力』を身に付けさせ個性の進展を図り、124 単位以上の単位取得により学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/3policy/
(概要) ディプロマポリシーを達成させるために、「専門」「専門基礎」「工学基礎」「共通教育」の 4 つの教育課程に分け、アクティブラーニングを軸に以下の教育内容、教育方法及び学修成果の評価を行う。 1 教育内容 (1) 専門教育 各分野において、必要となるあらゆる技術を統合化し、ものづくりに貢献できるようにするために実技に即した教育を行う。 (2) 専門基礎教育 一つの専門領域に限らない複数の工学技術や文系のスキル等マルチな専門性を身につける学科横断型の教育を行う。 (3) 工学基礎教育 1 年次から工学系科目を段階的にじっくり学び、自己の適性を見極めるとともに、着実に工学基礎力を身につけることが出来る全学科共通の工学基礎に関する教育を行う。 2 教育方法 学生の「学びへの意欲」や「主体性」を段階的に涵養しながら、多様化・複合化する社会に対応できる幅広い価値観とマルチな専門性を身につけさせる。また、教員の指導に基づき、学生が自ら課題を設定し、かつ解決に至る実行計画を立案

して実行する（アクティブラーニング）とともに、企業や地域と連携したプロジェクト実践により課題発見・解決・提案力を養成する。

3 学修成果の評価

各教科の評価基準は、シラバスに明記し、各学期の第1回目の授業時に学生に周知している。評価は、秀、優、良、可、不可の5段階表示であり、GPAにより定量化している。また卒業研究の評価は各分野別に、卒業研究発表会で、教員が評価している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/3policy/>

（概要）

第一工科大学は、建学の精神「個性の進展による人生練磨」及び大学の基本理念「個性の進展による創造的技術者の育成」に基づき、技術的創造を目指しながら、実践的能力を有する技術者および個性の進展による豊かな人間性と進取の精神に富んだ技術者の育成を教育の目標としている。

【第一工科大学の求める学生像】

工学分野への旺盛な研究心を有し、人間・社会・自然と技術の関わりに関心を持ち、何事にも挑戦する気概を持った国内外の多種多様な学生を受け入れる。

上記を受け、第一工科大学は次のいずれかの資質を有する学生を求める。

- ・本学で学ぶ目的や意義が明確で、新しい技術的な創造に知的好奇心を有する者
- ・人間・社会・自然と技術の関わりに関心を持ち、ものづくりに積極的に挑戦する気概を持っている者
- ・本学の特徴（教育システム等）を理解し、それらを積極的に活用することで自身の能力を高めようとする向上心を有する者
- ・他者と積極的に関わり、チームで協力して学修することに努力ができる者
- ・理数系科目の学習を好み、本学の修学のために必要な基礎学力を身につけている者
- ・社会に関心を持ち、多様な情報から自らの意見をまとめて表現するために必要な英語や国語、地理歴史、公民、情報等のマルチな学力を身につけることに努力できる者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/soshikikikouzu.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
航空工学部	—	10人	1人	3人	3人	0人	17人
工学部	—	21人	13人	8人	10人	0人	52人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
2人		32人					34人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： 鹿児島： https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/faculty_info/teacher_archive/ 上野： https://ueno.daiichi-koudai.ac.jp/class/teacher/						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
航空工学部	40人	45人	112.5%	220人	151人	68.6%	若干名	0人
工学部	320人	288人	90.0%	1220人	1087人	89.1%	若干名	3人
合計	360人	333人	92.5%	1440人	1238人	86.0%	若干名	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
航空工学部	42人 (15.5%)	3人 (7.1%)	21人 (50%)	18人 (42.9%)
工学部	229人 (84.5%)	15人 (6.6%)	162人 (70.7%)	52人 (22.7%)
合計	271人 (100%)	18人 (6.6%)	183人 (67.6%)	70人 (25.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
科目ごとの到達目標、授業の概要、年間スケジュール及び成績評価の基準・方法を示すとともに、テキストや参考資料等を明示している。また年度ごと、教育成果、授業評価、公開授業、学生アンケート結果等を踏まえて見直しを行っている。この際、カリキュラム改正に当たっては、先行的に必要な情報を収集し、教育に必要な教員を養成し、教材等を確保して授業計画書（シラバス）に反映している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
1 評価は、主として前期、後期の定期試験による得点の他、授業時間内の小テスト、課題レポート等の提出状況や実験・実習成果等により行い、また受講態度等による平常点を加味して総合的に行っている。				
2 各授業科目は、100点を満点として得点に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階評価としている。「不可」の学生に対しては、1回限り再試験を行っているが、この際最高の評価を「可」としている。また、やむ得ない理由により、定期試験を受けられなかった学生に対しては、本人の願いにより追試験を行っている。				
3 学位の認定は、共通総合教育科目36単位、専門科目88単位を取得していることを条件に、毎年3月初旬に行われる卒業判定会議（教授会）において、卒業の認定に関する方針に照らし合わせて審議し、学長が決定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
航空工学部	航空工学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
工学部	情報・AI・データサイ エンス学科	124 単位	有・無	単位
	機械システム工学科	124 単位	有・無	単位
	環境エネルギー工学科	124 単位	有・無	単位
	建築デザイン学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/wp-content/uploads/2022/06/2022_johokoukai5.pdf

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
航空 工学部	航空操縦学専攻	760.000 円	150.000 円	1.200.000 円	
	航空エンジニアリング専攻	760.000 円	150.000 円	600.000 円	
工学部	一般学生	760.000 円	150.000 円	400.000 円	
	情報・AI・ビジネス	760.000 円	150.000 円	300.000 円	
	情報・AI・ビジネス (上野)	760.000 円	150.000 円	180.000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

1 授業の学修支援

(1) 入学前学習プログラム

推薦、総合型入試で入学手続きを完了した入学予定者全員を対象に、入学後の主要な基礎科目である数学、物理、英語の学習教材を配付し、教科担当者による添削指導を1月末、2月末、3月末を標準に3回行っている。

(2) 習熟度別クラス編成

入学時に3教科(数学、物理、英語)、留学生は国語を追加し「プレースメントテスト」を実施、その結果に基づき数学、物理、英語の3教科の基礎科目について習熟度別にクラス編成(A～C)を行い、学生の個々の能力に応じた授業を行うことで、学習意欲の向上を図っている。

2 クラスアドバイザー(学級担任制度)による支援

各学科・学年毎のクラスアドバイザーが窓口となり、学科長、科目担当教員及び教学課が連携をとり、入学直後のオリエンテーションから4年次の進路指導まで、学生の学習・生活全般にわたる指導や就職相談等きめ細かい支援を、4年間一貫して行う全学的な体制をとっている。

3 資格取得を奨励する特別講義

各学科とも希望者に対し正規授業外で特別講義を実際し、資格の取得方法や国家試験に対する、知識向上等の対策支援を行い高い資格取得実績に結びついている。東京上野キャンパスでも、ITパスポート、Javaプログラミング、C言語プログラミング、情報処理技能検定、日商簿記検定、日本語能力等資格取得を推進している。

4 出席情報の確認

全科目について、平成22年度後期から運用を開始したWeb利用の学事システム(キャンパスプラン)の出席管理システムに、教員が自ら担当科目毎に入力するようにしている。このシステムは学内の教職員が共有し、学生個人の出席状況を確認できるようにしており学生指導に活用している。

5 履修に係る事項（学習情報の提供）

(1) 学生オリエンテーション

学生に対するオリエンテーションは、4月の学年初め及び9月の後期授業開始前に、全学生を対象に学年毎に行っている。全般的なオリエンテーションとして、事務サイドから、単位の取得要領、生活・衛生・図書に関するサービス等の説明を行い、各学科別オリエンテーションでは、学科における受講上の心構え、履修内容等の説明を行っている。特に1年次は、入学後間もないこともあり、1回目の説明に加え、2回目を特別オリエンテーションとして5月に行い、教務関連事項等の周知徹底を図っている。

(2) 履修等に係る情報伝達

学修や授業に関連する学生への情報伝達は、大学全般に係わる事項を、全学掲示板、学科単位の情報伝達を学科掲示板で行い、また大学Webページ（在学生向け掲示板）へアップし学生への周知を図っている。その他、学内情報伝達システム「moodle(携帯版)」を利用し、情報伝達を行っている。

東京上野キャンパスでは全学生に専用メールアドレスを付与してe-mailにより情報伝達を行っている。

6 通学支援

公共交通サービス網が脆弱な地方の特性を考慮し、本学から直線距離にして50km、60kmと離れた鹿児島県内及び宮崎県の一部エリアを含む6方面にスクールバスを運行し、多くの学生が在宅通学できるように便宜を図っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

学生に対する就職・進学支援は、大学として重要課題の一つと捉え取り組んでいる。

1 就職支援体制とその取組

就職支援体制として、「就職委員会規程」及び「職業紹介業務運営規則（学園規程）」を定め、就職委員会、就職・厚生課及び各学科がそれぞれ緊密に連携して、年間を通じて社会的・職業的自立に関する指導体制を構築し、学生への就職支援を実施している。

教育課程内においては、1年次から計画的に「修学基礎」「就業力演習」「インターシップ」「コミュニケーション技術」を配置し、一貫したキャリア教育を行っている。

教育課程外においては、鹿児島キャンパスでは、SPI 対策講座や各種資格取得支援講座を開設し、社会人として役立つための教育に取り組んでいる。

就職支援プログラムとして、1年次に就職意識調査を実施することにより、学生への卒業後の進路に対する動機付けを早期から行い、日々の学習意欲の向上に役立てている。また、外部より講師を招き、3年次生を対象に「就業力演習」、ビジネスマナーや社会人としての心構えなどの講話により、就職指導の一助としている。

東京上野キャンパスでは、「キャリアデザイン」「キャリアカウンセリング講座」の科目において SPI 模試、模擬面接、実業家を招いての企業研究講座などを開講し、就職活動に対する具体的な事項や取り組み姿勢を指導している。

2 進学支援体制

他大学の大学院への進学希望者に対しては、相談を受ける教員を置き、特勉会と称して個人別に受験するための準備や事前の指導を行っている。

また、今年度、相互の教育・学術に関わる交流・連携を図るため、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）と「大学院への推薦入学に関する協定」を締結するとともに、同大学院入学に関する説明会を実施し、本学学生の大学院進学の意欲の増進及び幅広い分野への進路選択の推進を図っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

1 学生相談

悩みのある学生に対する初期対応は、教学課や就職・厚生課が行うとともに、学科教員、共通教育センターの教員及び事務職員で構成されるクラスアドバイザーが総合的に対応するなど柔軟に支援している。また学外の専門カウンセラーによるカウンセリングも取り入れている。「オフィスアワー」(Webで掲示板等に記載)を設け、学生が学科間を横断して自由に相談できるようにしている。

更に、学外の専門カウンセラーが対面及びZoomによるカウンセリングルームをオープン、気軽に相談できる体制づくりに努めている。

東京上野キャンパスでは、1年生は1クラス25人の学生を1人のクラスアドバイザーで、きめ細かく相談できるようにしている。3年後期からは全専任教員1人あたり8人以下の学生相談に応じ、適時面談、電話相談を行っている。

鹿児島キャンパスでは、男子学生が大半を占める中、女子学生専用のコルネラウンジを設置し、少数の女子学生が互いに気軽に交流や相談ができるよう心的支援を行っている。

2 健康管理

学校保健法及び学園規程に基づき全学生に対する定期健康診断を毎年4月に計画・実施し、その診断結果について通知するとともに、所見のある学生には専門医の受診等を指導している。平成24年度から学生の喫煙に関し、令和2年6月からは、健康管理面の配慮から「大学構内全面禁煙」としている。禁煙指導は1年生前期授業科目である

「修学基礎」の時間を利用し、部外講師(薬剤師資格を持った講師)による専門的な立場から教育・指導を行っている。また、薬物乱用防止については、文部科学省・厚生労働省・警察庁が共同発行している「薬物のない学生生活のために」を、オリエンテーション時に配付し、在学生から薬物乱用者が出ないよう指導徹底を図っている。

3 保健衛生

学生の保健衛生に係る施設として「保健室」を整備している。保健室の使用目的は、軽度の負傷や疾病等に対応するほか、医療機関に搬送するための一時待機場所として使用している。また、看護師や救急車、病院への連絡は、就職・厚生課職員が処置している。また学園には産業医や学校医が定められていて適時に指導を受けている。

東京上野キャンパスにおける学生の健康管理は、就職・厚生係が担当し保健室に常備薬とベッドが配備されている。事故が発生した場合は、厚生担当が近隣の総合病院に連絡をとり、付き添っていく体制を組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/information/>